

直方市立図書館改修工事

コンセプトシート

(令和7年度 直方市教育委員会)

コンセプト

『 人と学び、本と学び、
“居心地の良さ”を感じられる図書館 』

基本方針

1. 「知りたい」「学びたい」を支える
2. 人と文化をつなぐ
3. 居場所づくり
4. 新たな出会いを作る

人と学び
本と学び
居場所を感じられる図書館

1

「知りたい」「学びたい」を支える

2

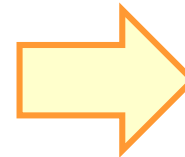
人と文化をつなぐ

3

居場所づくり

4

新たな出会いをつくる



1

わかりやすい配架の検討

1

自動貸出機の導入

1

学校図書館の支援

2

4

図書館事業への市民参加

2

市内文化施設との連携強化

2

市内公共施設における書架の設置

3

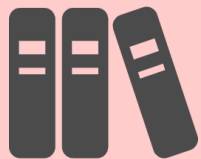
1

〇〇してはいけないをなくす

4

3

自由な使い方ができる空間づくり



わかりやすい配架の検討

現在の配架方法（**日本十進分類法**）を採用しながら、より本を探しやすく、利用しやすい図書館を作っていくために、**各エリアごとのサイン表示**、子どもたちにもわかりやすいように**分類の言い換え**を検討します。



自動貸出機の導入の検討

図書を借りる際のプライバシーを配慮して、**誰もが自分の借りたい本を迷わず借りることができるように**自動貸出機の導入を検討します。自動貸出機の導入により、貸出図書数の増加、図書館職員の負担の軽減についても期待します。



学校図書館の支援

市内小学校における学校図書館において、市立図書館の**司書職員が赴き**、支援を行います。工事中**1年間実地で整備**、その後は**DXを活用**した支援・助言により小学生にとって一番身近な図書館をより充実した環境へ整備します。



図書館事業への市民参加

より親しみ深く、利用者とともに成長できる図書館となるように利用者が参加できるような企画を行います。

例) 利用者がおすすめする本を配架する企画棚、図書館の名前の公募



市内文化施設との連携強化

南側駐車場のSL広場の活用などから、他文化施設との連携事業を強化し、直方市における文化振興の拠点が図書館となるような仕組み作りに努めます。また、SLや筑豊文庫など地域に歴史に関するコーナーを設ける。



市内公共施設における書架の設置

市内の各公共施設において、その施設に関連した本などを配架する書架を設置し、市内のあらゆる場所で本にふれることができる環境を整備し、市内の読書活動の推進に努めます。



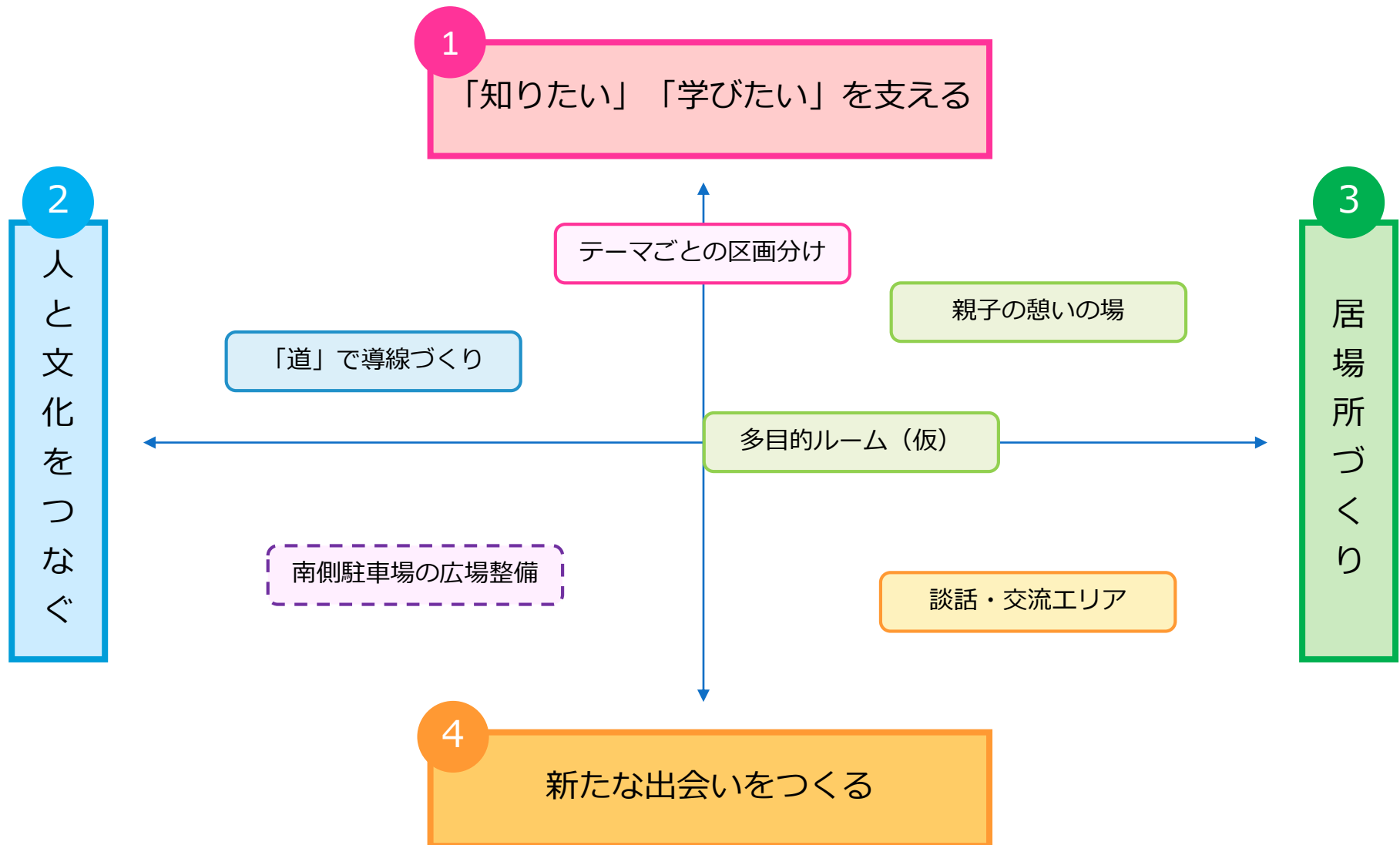
〇〇してはいけないをなくす

図書館の利用において、話してはいけない・飲食してはいけないなどといった**禁止事項を緩和**し、居心地のいい空間づくりに努めます。また、従来通り静かに読書や学習したい人のために**サイレントルーム**を設けます。



自由な使い方ができる空間づくり

現在筑豊文庫として活用している居室を**自由**な使い方ができる**多目的ルーム（仮）**として整備します。あえて**用途を限定しない**ことで、利用者それぞれが思い思いの使い方で利用し、文化の創造や中高生の活躍の場となっていくことを期待します。また、土日祝等様々なイベントが催され、図書館内での**活気や交流**が生まれていくような活用法を検討します。





テーマごとの区画分け

テーマやジャンルごとに明確に区画分けすることで、利用者が求めている本を容易に探すことができるような環境づくりに努めます。

区画分けについては、テーマ・ジャンルごとに色や什器を使い分ける等視覚的に分かりやすい意匠を検討します。



「道」で視覚的な導線づくり

正面入口から南側出入り口にかけて、「道」を設けることで利用者を誘導し、左右に配置した書架を探しやすく整理します。また、書架の側面に中央公民館・郷土資料室の展示物や直方市美術館の展示物の一部を展示することで、各館の宣伝効果も期待できると考える。



参考：熊本県不知火図書館

親子の憩いの場

小さな子どもが靴を脱いで遊びながら絵本を読むことができ、**親子の憩いの場**となるようなスペースを設けます。現在のお話コーナー付近に絵本や児童書を配架しているが、その区画を整理し、「かぞく（仮）」のテーマで絵本や児童書、現在家庭コーナーとして配架されている本をまとめます。



参考：那珂川市立図書館

多目的ルーム（仮）

現在筑豊文庫となっているスペースを**多目的ルーム（仮）**として改修します。あえて用途を限定しないスペースとすることで、**自由な使い方ができる**ようにし、学習や会議、創作・研究活動、各種イベントの実施等から図書館における活気や交流づくりに貢献できるよう環境整備を行います。



参考：牧之原市立図書館

参考：ヘルシンキ図書館

談話・交流エリア

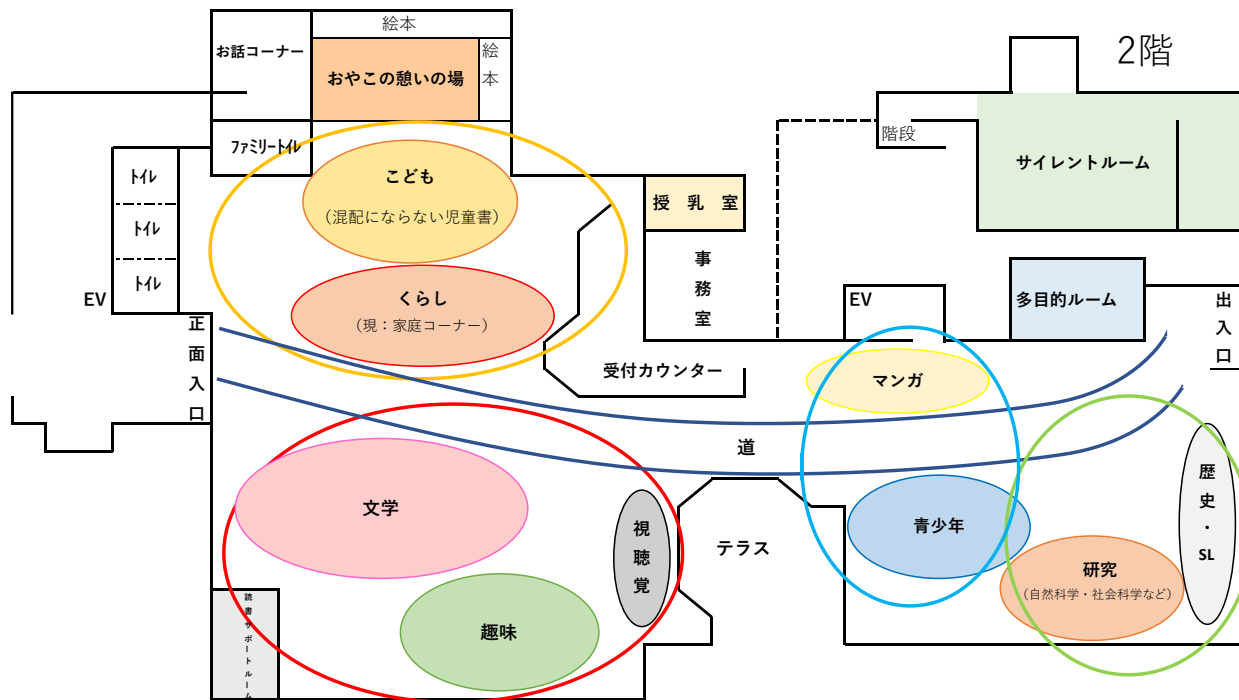
小ホール前から図書館ロビーにかけて、現在複数人掛けの机・椅子を配置し、子どもの居場所づくりとしているが、**談話・交流エリア**として整備し、より市民の**憩いの場**となるような空間づくりを目指します。

『利用のしやすさ』 『居心地の良さ』
『交流促進』

をキーワードに内装のリニューアルを実施
予定がない日にふと行きたくなる図書館へ



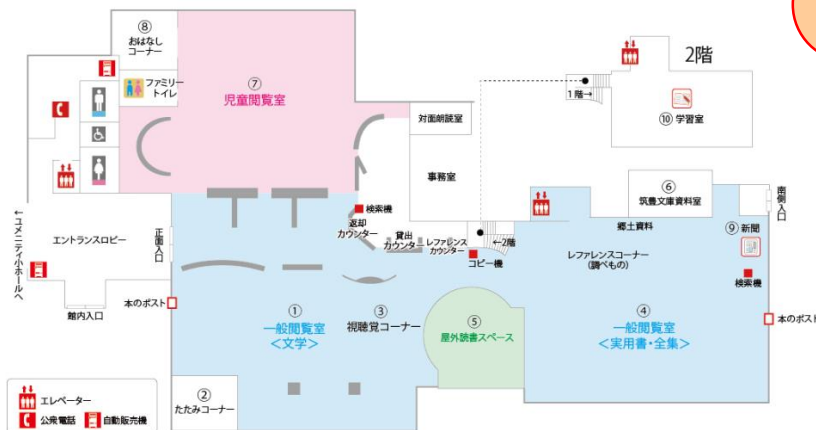
レイアウト (案)



新

- ・居室の用途変更
- ・床装飾の変更
- ・書架配置の変更など

旧



居室の用途変更

方針：現在の利用状況を考慮し、**求められている機能の充実**を目指します。



筑豊文庫資料室



多目的ルーム（仮）



2 階会議室



サイレントルーム



畳コーナー



対面朗読室



対面朗読室



授乳室



車庫



書庫

書架の検討

方針：既存の配架図書数を維持しつつ、配置・書架の種類によって書架数を減らし、ゆとりのある空間づくりを目指す。



参考：熊本県 不知火図書館

壁面を活用し、天井に届くまでの背の高い書架を採用しており、開架図書数を高く保ちつつ、閲覧スペースを広く確保できている。



参考：熊本県 荒尾市立図書館

渦潮をイメージした、弧の形になっている書架を採用しており、魅せる書架になっているほか、区画分けの分かりやすさも演出している。

机・椅子の検討

方針：書架の見直しによってゆとりのできた空間を有効活用し、**本を読むだけではなく、勉強や仕事など様々な用途で利用できる**机や椅子の配置を目指す。

参考：福智町立図書館



四人掛けの机を多く配置し、間仕切りのある机では、**一人でも利用がしやすい**ような工夫がされている。

参考：宮若市立図書館



6人掛けの机を壁沿いに並べ、個人でもグループでも利用しやすい印象。電源が内蔵されており、PCでの作業など多様な使い方ができる。

参考：田川市立図書館



1人掛けの机を多数配置し、一人で集中して読書や学習ができるような環境づくりがされている。

石炭記念館及び筑豊文庫の資料の配架

方針：歴史コーナー（仮）として、石炭記念館や筑豊文庫にある貴重な資料の配架を行う。



SL広場と連動

SL広場より近く、窓からもSLが見える書架に配置する。

配架場所

書架上段2段ほどを閲覧可能な資料にし、その他石炭記念館に関するパネルなどを展示しコーナーを演出する。

保管場所

閲覧に注意が必要な貴重な資料を湿度・温度に配慮した書庫で保管する。

参考：板橋区立中央図書館

直方市立図書館改修工事基本構想



令和 7 年度
直方市教育委員会

目 次

I. 直方市立図書館改修工事基本構想策定の背景と意義	1
II. メインコンセプト（基本理念）	2
III. メインコンセプトを実現するための基本方針	3
1. 「知りたい」「学びたい」を支える	3
2. 人と文化をつなぐ	3
3. よき居場所づくり	4
4. 新たな出会いの創出	4
IV. 新たなサービスの重点事項	5
1. わかりやすい配架の検討	5
2. 自動貸出機の導入の検討	5
3. 学校図書館の支援	6
4. 図書館事業への市民参加	7
5. 市内文化施設との連携事業	7
6. 市内公共施設における書架の設置	7
7. ○○してはいけないをなくす	8
8. 自由な使い方ができる空間づくり	8
V. 施設整備の基本方針	9
1. 施設整備の重点事項	9
2. レイアウト案	11
3. 内装検討事項	13
VI. 今後のスケジュール	14

I. 直方市立図書館改修工事基本構想策定の背景と意義

直方市立図書館は、昭和6年度の市政施行に伴い「直方町立図書館」から「直方市立図書館」となり、昭和34年9月、直方市日吉町に移転しました。その後、平成13年4月に現在の市立図書館が竣工し、同年7月より会館しました。直方市立図書館は開館してからこれまで、市の社会教育を支える施設として多くの市民に利用されてきましたが、社会の変化や建物・設備の老朽化が進む中で、施設整備とサービスの転換の両面において積極的な対応が求められています。

そこで、単に施設の不具合を解消するための修繕工事とするのではなく、地域の状況や図書館を取り巻く世間の流行を考慮した、よりよい新たな図書館にするために、図書館のあり方やサービスについて改めて考え、施設・サービスを含めリニューアルするための改修工事を行うこととしました。

改修後の市立図書館は、読書活動の推進や市の文化振興を支える社会教育施設であるとともに、読書を目的としていなくても気軽に立ち寄りたいと思えるような、市民のよき居場所となる施設づくりを目指します。

Ⅱ．メインコンセプト（基本理念）

『人と学び、本と学び、居心地の良さを感じられる図書館』

市立図書館において、読書活動の推進は担うべき大きな役割の一つです。改修後もより一層こういった役割を果たすため、新たな「本」との出会いの支援や読書をしやすい環境づくりを目指します。また、改修後の市立図書館では、「本」との出会いだけでなく、「人」との出会いや交流から生まれる学びを育む場所としての機能を果たせるような環境づくりを目指し、市民が集う憩いの場となることを期待しています。

「本」や「人」に象徴されるさまざまなつながりを育む場としての図書館は、互いを拘束しあうような窮屈なものではありません。一人ひとりの時間と空間を大切にしながら、誰もが「居心地の良さ」を実感できるような場所になることも大切なことであると考えています。

Ⅲ. メインコンセプトを実現するための基本方針

1. 「知りたい」「学びたい」を支える

読書や自習など、学習の場としての図書館のサービス、机や椅子などの環境整備を実施します。図書館内のサイン表示や分かりやすく探しやすい本の配架方法を検討し、誰もが利用しやすい施設に改修します。

また、授乳室を家族のコーナー近くに設置することや絵本コーナーにおいて靴を脱いでこどもと遊びながら絵本に触れることができるような空間づくりを行い、子育て世代にとっても利用しやすい図書館とすることを検討します。

レイアウトや設備といったハード面だけでなく、一人ひとりが他の利用者の気持ちを理解し、誰もが気持ちよく利用できるような環境づくりについても検討し、利用者とともに成長できる図書館を目指します。

2. 人と文化をつなぐ

本市で紡がれてきた、炭鉱で栄えた歴史や文化の足跡は市民が未来に誇れる文化的な財産です。こうした歴史や文化について、学んだり関心を高めたりしてもらうだけでなく、今後も活発な文化活動が行われ、新たなつながりや歴史が育まれていくための支援を行っていきます。図書館敷地内における講演会や体験会などのイベントの実施、それに付随した展示などを他の文化施設と連携して行い、文化振興の起点となる図書館を目指します。

3. よき居場所づくり

市民が気軽に立ち寄れるような内装・設備等の環境を整え、図書館駐車場には人工芝を敷いた広場を設けるなど、図書館内だけでなく屋外でも読書を楽しめるように外構の整備を行います。また、読書を目的としていなくても来館したいと思ってもらえるような環境づくり、仕組み作りを検討します。施策として、飲み物や軽食等を提供する自動販売機の設置や飲食可能コーナーの整備等を検討します。

4. 新たな出会いの創出

配架方法の工夫や市立図書館で行われるイベント等を通して、自分の新たな興味との出会いの場をハード面やサービスの観点から検討します。また、人と人とのつながりや交流を生み出すための環境整備や仕組みづくりを目指します。利用者同士の交流を促進するための施策として、利用者が勧める本を配架する企画棚の導入等を検討します。

IV. 新たなサービスの重点事項

1. わかりやすい配架の検討

図書館のリニューアルに伴い、あらゆる世代にとってわかりやすい図書の配架を検討します。現在の配架方法としては、日本十進分類法を採用しており、これは日本全国ほとんどの図書館で採用されている方法です。この配架方法で探すことに慣れていれば、全国のほとんどの図書館に行っても図書を容易に探すことができるというメリットはあるものの、分類が難しいこと、DX関連等新規のジャンルには対応していないことなど、慣れていない人にとってはわかりづらい配架となっているのも事実です。今回のリニューアルにあたって、これらの分類方法自体は変えずに、サイン表示や分類の言い換えなど視覚的にわかりやすくする工夫を検討します。

2. 自動貸出機の導入の検討

現在市立図書館での本の貸出は、カウンターでの対人による対応しか行っていないですが、利用者の中には自分の借りた本を見られたくないといった心理もあり、プライバシーの配慮が必要です。

今回のリニューアルにあたって、自動貸出機を導入することで、そういった利用者のニーズに応え、誰もが自分の借りたい本を迷わず借りることができる環境をつくれます。自動貸出機の導入により、貸出図書数の増加や図書館職員の負担の軽減についても期待しています。

3. 学校図書館の支援

市立図書館を改修する令和9年度において、市立図書館で働く司書の職員を各小学校の学校図書館に派遣します。司書による学校図書館の整備を行うことで、子どもたちの読書への関心を向上させることを目的としています。現在直方市では、学校図書館に司書の職員の配置はなく、それぞれの学校で担当となった教員が対応している状況です。小学生時の読書週間の形成において、学校図書館は非常に大きな役割を持つものであると考えます。そんな中で、本市の学校図書館の運営は充実しているとはいえないため、一年間であっても司書が整備をすることで大きな効果が期待できると考えています。工事竣工後も定期的に市立図書館の司書が学校図書館の援助に赴き、質の高い学校図書館を維持していくことのきっかけとなるよう努めます。

4. 図書館事業への市民参加

図書館リニューアルの基本方針である、「人と文化をつなぐ」、「新しい出会いをつくる」を達成するためには、図書館事業への市民の積極的な参加が必要不可欠であると考えています。そのため、利用者の市民が考案した企画棚の設置や改修後の図書館の名前の公募など自らが市立図書館の事業に参加しているという意識を持てるような試みを検討し、より市立図書館が市民に近い施設となるよう努めます。

5. 市内文化施設との連携事業

市内文化施設との連携事業を強化し、文化振興の拠点となるような施設づくりに努めます。図書館南側駐車場において、SL が設置された広場整備を行うため、それらを活用した石炭記念館との連携事業や美術館との連携事業の実施が考えられます。また、図書館内において美術館の美術品や中央公民館郷土資料室の資料の展示、SL 関連の資料の展示などを行い、市立図書館が文化振興の拠点となるような仕組みづくりに努めます。

6. 市内公共施設における書架の設置

ユメニティのおがたや石炭記念館などの市内文化施設、中央公民館や市立体育館などといった市内の公共施設において、関連図書を配架することで、図書館内から各施設への導入だけでなく各施設から図書館への導入、利用の促進を図り図書館を通じた市内の文化・教育の振興に寄与できるような仕組みづくりに努めます。

また、市立図書館に来ることができない方にとっても身近に読書ができる環境づくりという点においても効果を期待しています。

7. ○○してはいけないをなくす

市立図書館の利用について、飲食や学習できるスペースの制限、学習室利用の制限、話すのは控えるなどといったルールがありますが、改修後の市立図書館では、こういった禁止事項を緩和し、誰もが居心地のいい空間づくりに努めます。しかし、すべての禁止事項を緩和・なくすわけではなく、利用者の一人ひとりが他の利用者を気遣い、すべての人が気持ちよく利用ができるような施設づくり・ルールづくりを検討します。

8. 自由な使い方ができる空間づくり

現在筑豊文庫として活用している居室を自由な使い方ができる多目的ルームとして整備します。あえて用途を限定しないことで、利用者それぞれが思い通りの使い方で利用し、文化の創造や中高生の活躍の場となっていくことを期待します。また、土日祝等様々なイベントが催され、図書館内での活気や交流が生まれていくような活用を検討します。

V. 施設整備の基本方針

メインコンセプトの実現のため実施する新たなサービスを踏まえ、それらを叶えることを念頭に置いて、目的のある施設整備を実施します。施設整備においては、現在の利用者のニーズ、現在は利用が少ない市民のニーズを把握するために実施した、アンケート調査をもとに計画を行っています。

Ⅰ. 施設整備の重点事項

施設整備において、メインコンセプトを実現するための基本方針に対応した重点事項として、以下の6つを挙げます。

① テーマごとの区画分け

テーマやジャンルごとに明確に区画分けをすることで利用者が求めている本を容易に探すことができるような環境づくりに努めます。区画分けについては、テーマ・ジャンルごとに壁や床の色や什器を使い分ける等視覚的に分かりやすい意匠を検討します。

② 「道」で視覚的な導線づくり

正面入り口から南側出入り口にかけて、「道」を設けることで利用者を誘導し、左右に配置した書架を探しやすく整理します。また、書架の側面に直方市中央公民館（郷土資料室）の展示物や直方市美術館の

収蔵品の一部を展示することで、各館の宣伝効果も期待できるのではないかと考えています。

③ 親子の憩いの場

小さな子どもを連れた家族が靴を脱いで遊びながら絵本を読むことができ、親子の憩いの場となるようなスペースを設けます。現在のお話コーナー付近に絵本や児童書を配架していますが、その区画を整理し、「かぞく（仮）」などのテーマで絵本や児童書、現在家庭コーナーとして配架されている本をまとめます。

④ 多目的ルーム（仮）

現在筑豊文庫となっているスペースを多目的ルーム（仮称）として改修します。あえて用途を限定しないスペースとすることで、自由な使い方ができるようにし、学習や会議、創作・研究活動、各種イベントの実施等から図書館における活気や交流づくりに貢献できるよう環境整備を行います。

⑤ 談話交流エリア

小ホール前から図書館ロビーにかけて、現在複数人掛けの机を配置し、子どもの居場所づくりとしているがその機能の拡充、より居心地のいい空間づくりを検討し、話しながら読書や学習、休憩ができる談話・

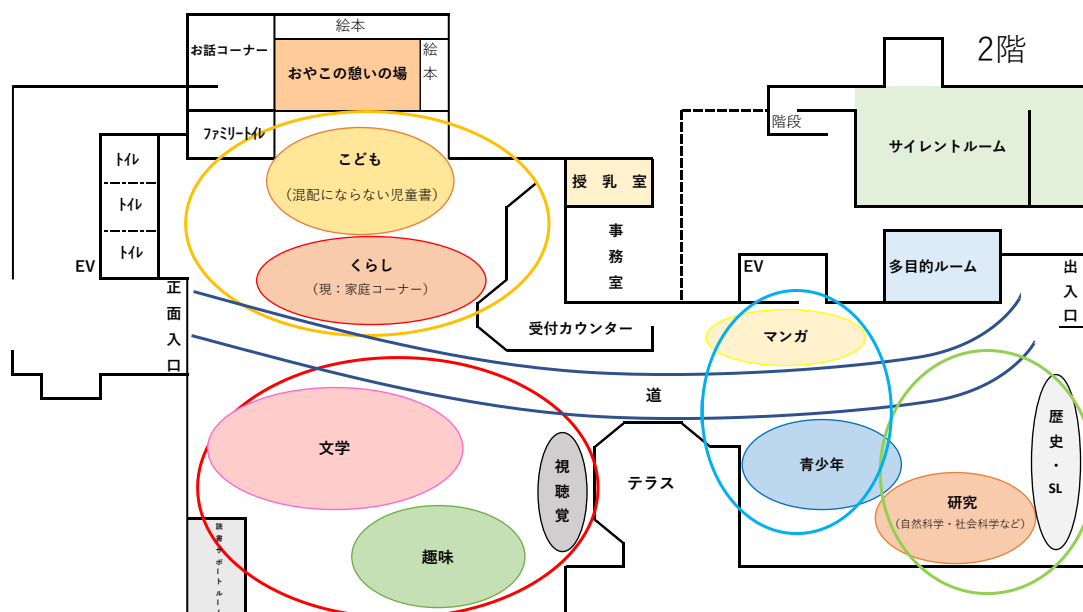
交流エリアとして、より多くの市民の憩いの場となるよう環境整備を行います。

⑥ 南側駐車場の広場整備

南側駐車場において、駐車台数を増加させるとともに蒸気機関車（SL）をシンボリックに配置し、広場整備を行います。広場には人工芝を敷くなど、図書館で借りた本を外でゆっくり読むことができるような広場として整備を行います。また、蒸気機関車を活用した他文化施設との連携事業などを行い、直方市が持つ歴史や文化の振興に貢献します。

2. レイアウト案

改修後の図書館のレイアウト案は以下のとおりです。



サービス事業の転換に伴い、居室の用途も以下のように変更します。

① 筑豊文庫資料室 ⇒ 多目的ルーム（仮）

現在利用者が限られている筑豊文庫資料室を多目的ルーム（仮）とし、自由な使い方ができるスペースとします。

② 2 階会議室 ⇒ サイレントルーム

現在書庫として活用している 2 階会議室をサイレントルームに改修します。

この改修によって 2 階会議室に格納されていた本の行き場については、既存書庫の格納数の増量によって対応します。

③ 畳コーナー ⇒ 対面朗読室、書架

畳コーナーについては、畳の劣化や利用者数の減少から半分を対面朗読室、残りをフローリング等整備し、書架を配置できるようにします。対面朗読室については、現在事務室横に位置し利用頻度は高くはありませんが、バリアフリーの観点から図書館に必要な機能であると考えています。

④ 対面朗読室 ⇒ 授乳室

現在対面朗読室として利用されている居室を授乳室として活用します。理由としては、おはなしコーナーや絵本コーナーなど子ども向

けの書籍やイベントスペースからの導線や水場の近さなどを考慮したためです。

⑤ 車庫 ⇒ 書庫

車庫として利用しているスペースについては、消防法上の問題もあり車庫として適切ではないことと、図書館内において書庫が不足している現状を踏まえ、本を保存するのに適した環境を整え書庫として改修します。

3. 内装検討

① 書架について

書架については、既存の配架図書数を減らすことなく、壁面の活用や書架に背の高い什器を活用するなどで書架数を減らし、ゆとりのある空間づくりに努めます。

② 机・椅子について

既存の机や椅子の数を増やすことを前提として、複数人掛けのものや一人掛けのもの、電源が内蔵されたものなど様々な用途に対応できるように配置を検討します。また、各区画の利用者層や利用目的を踏まえたデザイン・配置を検討します。

③照明について

現在成人閲覧室の照明は、書架に付属した照明のみとなっており、曇天時や夕方時などには照度が足りない状況となっており、薄暗い印象を与える空間となっています。今回の改修において、全体的に明るい印象を与えられるような照明を検討し、明るく過ごしやすい空間づくりに努めます。

④石炭記念館および筑豊文庫の資料の配架

南側駐車場における蒸気機関車（SL）や石炭記念館、筑豊文庫など地域の歴史に関する展示・配架を行うコーナーを設けます。図書だけでなく、写真などのパネル展示からより地域の歴史にふれることができる仕組みづくりを検討します。

Ⅵ. 今後のスケジュール

以下のスケジュールでの工事を予定しています。

令和7年												令和8年												令和9年												令和10年					
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5			
基本構想			基本設計及び実施設計																						市立図書館改修工事期間																
												ユメニティのおがた改修工事期間																													

Nogata city
entrepreneurship
educational
program



世界を知る。わたしを見つける。

Let's learn about the world and find yourself.

令和6年度直方市中学生海外派遣事業

事業報告書

令和6年12月21日
直方市教育委員会

事業報告書 目次 Table of Contents

01. 事業理念
02. 事業概要
03. 派遣団員紹介
04. 事業者紹介
05. スケジュール
06. プログラムについて
07. 事前研修
08. 現地研修
09. 派遣団員の声
10. 派遣団員手記

01 事業理念

直方市教育大綱

未来を拓く

新しい時代をたくましく生き抜く人づくり

1. 時代の変化を見据えた教育への変革と推進
2. 可能性を引き出し、才能を伸ばす教育の推進
3. 文化を尊重し、国際性と豊かなコミュニケーション力を育む教育の推進
4. すべての人の幸せをかなえる教育の推進
5. よりよい自己実現をめざし、生涯学び続ける力を育む教育の推進

事業創設の趣旨

教育大綱の実現のために

本市では、「未来を拓く～新しい時代をたくましく生き抜く人づくり～」を教育大綱に掲げています。未来を見据え、自らの人生を切り拓き、よりよく自己実現を果たす力を持つ人材の育成が、地域の未来を切り拓いていく力となるものと考え、これまでの手法や慣習にとらわれない教育の改革、そのための投資を行い、未来をたくましく生き抜く人づくりのための教育施策を推進します。

VUCAの時代に子ども達に必要な力

昨今では、世界情勢の変化やAI（人工知能）などテクノロジーの急速な進展により、物事の不確実性が高く急激な変化が起こる時代であり、将来の予測が困難な状況にあります。VUCAと呼ばれるこの時代に子どもたちにとって本当に必要な「生きる力」を育むことを目的に本事業を創設しました。

子ども達の未来の選択肢を増やす

家庭や学校以外での体験が子どもたちの未来に与える影響は計り知れません。直方市に住む子どもたちが置かれた環境に関わらず、自分自身の新たな可能性を見出し、より多くの選択肢から自らの力で進みたい道を選び取ることが出来る機会作りを目指します。

02 事業概要

事業の目的

- ① 子どもたちが興味関心を世界に広げるとともに、海外の文化・芸術・自然に触れることで多様な感性を育み、未来の選択肢を増やすこと
- ② アントレプレナーシップ（起業家精神）の醸成をテーマとしたプログラムを体験することで、将来の予測が困難な時代に必要な「生きる力」を育み、変化の中に機会を見出し、自らイノベーションを起こしていく次世代リーダーを輩出すること

テーマ

～フィンランド流アントレプレナーシップを学ぶ1週間の旅～

世界を知る。わたしを見つける。

Let's learn about the world and find yourself.



アントレプレナーシップ教育とは

起業家（アントレプレナー）に必要とされる精神【チャレンジ精神・創造性・探究心】や資質・能力【情報収集・分析力・判断力・実行力・リーダーシップ・コミュニケーション能力】の育成に着目した「生きる力」を育てる教育です。不確実性が高く将来の予測が困難なこれからの時代においても、自分の強みや輝ける環境を認識し、変化の中に機会を見出して自らイノベーションを起こすことで未来を切り拓いていくことができる人材の育成を目的としています。

派遣先選定理由

フィンランドの学校で大切にされているものは「未来を描く力」「自分で自分の人生を切り拓く力」「自分の人生を主体的に作る力」です。自分自身のことをよく知り、自分の「好き」や「得意」が社会とどう繋がっていくかを考える教育が実践されています。『自分自身と誰かのために新しいものを創造する・変革を起こす。』これがフィンランド流の「アントレプレナーシップ（起業家精神）」と呼ばれるものです。世界最高水準の教育現場で「生きる力」を学ぶことは、本市の子ども達が新たな価値観に触れ、未来への可能性を広げるきっかけとなると考えています。この約1週間の旅では、日本とは全く異なる環境でたくさんの刺激を受けながら、異文化体験と国際交流を通して、楽しく「アントレプレナーシップ」を学びます。

事業概要

主催	直方市教育委員会
運営形態	業務委託
対象	市内在住の中学1～3年生
派遣先	フィンランド（ヘルシンキ周辺）
申込期間	4月1日（月）～ 24日（水）
派遣期間	8月18日（日）～ 25日（日）
派遣人数	8人
参加料	無料



① 参加負担金無料

Point
誰もが挑戦しやすい機会の提供を目指し、渡航費用を含む全ての費用を市が負担。
（※パスポート取得費用やお小遣い等の個人的な費用は除く。）

② アントレプレナーシップに特化したプログラム構成

Point
漠然と「海外へ行ってみる」だけではなく、世界最高水準の教育を実践する、アントレプレナーシップ教育の先進国であるフィンランドならではのプログラム設計。

③ 多彩な体験活動

Point
観光地の周遊やホームステイをメインとした研修ではなく、自然・文化・歴史・教育の分野に渡り、1週間で余すところなく体験できる多角的な刺激が盛り沢山の内容。

応募条件

本事業は、国際社会での活躍を目指し、将来的に地域社会に貢献する意欲のある中学生を対象としています。プログラム終了後もチャレンジ精神と学習意欲を持って学校や地域において派遣体験を積極的に生かそうとする意志があることを前提に、以下の条件をすべて満たすことを応募条件とします。

1. 本事業の応募から報告会の終了まで、市内に在住している中学1～3年生
2. 応募者本人が積極的に海外派遣を希望し、保護者の同意・協力が得られる者
3. 事前・事後研修を含めた全てのプログラムに参加できる者
4. 心身ともに健康で、渡航および海外滞在期間の生活に適應でき、生活面で自己管理ができる者
5. 本事業の計画に従い、規律ある団体行動がとれる協調性がある者

選考方法・応募数

【1次】書類選考	応募数：52人	通過者：15人
【2次】面接選考	受験数：15人	通過者：8人

運営形態

【主催】直方市教育委員会
【企画・実施】業務委託（公募型プロポーザルによる提案方式により業者選定）

03 派遣団員紹介

派遣団員

直方第二中学校 2年生

石田 さら さん

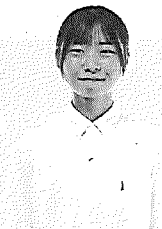
★自分からなんでも挑戦して困難や問題乗り越える力をつけたい
★一緒に参加する人やフィンランドの方とたくさん話して自分の価値観を広げたい



直方第三中学校 2年生

奥野 舞 さん

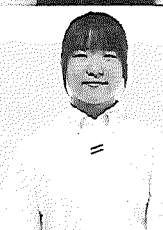
★日本との文化や生活の違いを知りたい
★リーダーシップ、判断力、チャレンジ精神など、「生きる力」を学びたい



直方第三中学校 2年生

花島 礼華 さん

★自分で将来を切り開いていく力をつけたい
★日本とは違う生活スタイルや価値観などに触れ、異なる環境でも柔軟に対応できるようになりたい



直方第三中学校 3年生

野原 茉莉 さん

★人生の基盤となる小学校教育を探究したり、これからの自分の人生について考えたい
★コミュニケーション力や実行力などを学びたい



直方第三中学校 3年生

野吾 蒼矢 さん

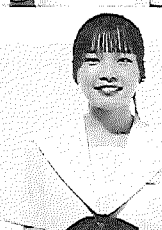
★自分の将来を決める材料をこの体験を通じて探したい
★将来の夢である「作曲家」を目指すのか、勉強して進学していくのか、体験を通じて考えたい



植木中学校 3年生

磯野 采音 さん

★フィンランドの教育は、日本とは何が違うのか詳しく学びたい
★異国の教育に触れ、自分自身の課題を見つけ、これからの自分の生活や学習を見直したい



福岡大学附属大濠中学校 2年生

近藤 輝例 さん

★いろんな人の話を聴き、まとめ、取り入れていく力をつけたい
★現地では、たくさんの人に自分から声をかけたい



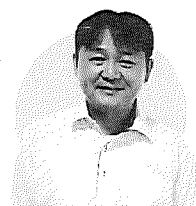
嘉穂高等学校附属中学校 3年生

山際 さゆり さん

★自分の新しい可能性や能力を見つけて、将来の夢を具体化したい
★貴重なこの体験を全力で楽しんで、学んだことを未来に活かしたい



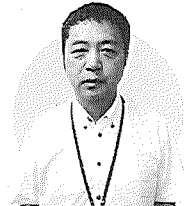
引当き



直方第一中学校
教頭 堀 憲文



直方第三中学校
教諭 若林 映江

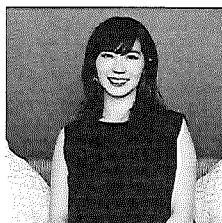


直方市教育委員会
教育部長 熊井 康之

04 事業者紹介

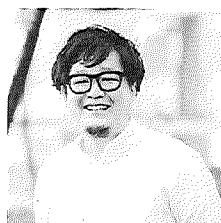
Tiger Mov, Inc.

商号 タイガーモブ株式会社
所在地 東京都渋谷区神山町5-20 ZINE YOYOGI-KOEN 1B
TEL 050-1751-2037
設立日 2016年4月
事業内容 オンライングローバル教育事業・グローバル実践教育事業
グローバル研修事業・学校コンサルティング事業等
役員 共同代表取締役CEO 菊地 恵理子／共同代表取締役COO 中村 寛大
顧問 元国連事務次長 明石 康／元ソニーマーケティング社長、日本トイザらスCEO 小寺 圭



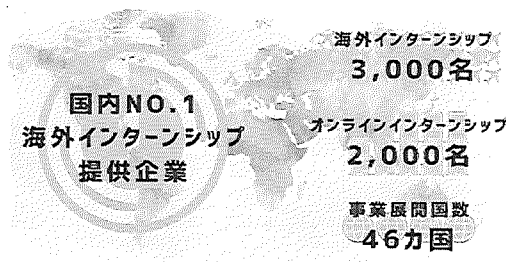
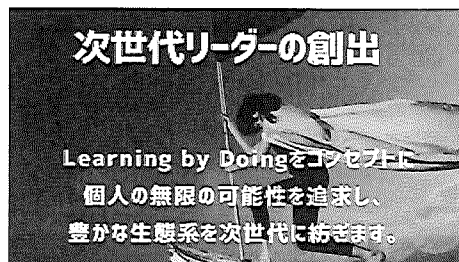
CEO 菊地 恵理子

関西学院大学総合政策部、「ASEAN地政学プログラム」卒。在学中は中国での留学・インターンシップや8カ国を回る一人旅を実施。その後、人材会社に入社し、2年目に海外事業部を立ち上げ、タイガーモブの前身となる海外インターン事業を始動する。約600名を海外に送り出した実績を経て、タイガーモブ株式会社を設立。
ユメニティ国際学院ナビゲーター、情報経営イノベーション専門職大学 [IU] 客員教授、2022年度内閣府青年国際交流事業の在り方検討会委員。2017年全国商工会連合会女性会連合会主催女性起業家大賞スタートアップ部門特別賞、EY Winning Women 2018ファイナリスト受賞。



COO 中村 寛大

栃木県出身、立教大学卒。在学中は、ITベンチャーにてインターンを経験。新卒で株式会社ジョブウェブへ入社、新人で過去最高の売上記録を打ち立て、サービス開発、スタートアップから、グローバル企業まで採用支援や組織開発コンサルティング事業などに取り組む。その後、eコマースベンチャーにて執行役員として経営に参画。HR、マーケティング、商品開発、財務など幅広く実務・マネジメントを経験。
実践こそ最大の学びとなることを身をもって体感し、タイガーモブへジョイン。文部科学省のWorld Wide Learningコンソーシアムの形成や、新学科創設、カリキュラム編成、講師として参画し、約30の学校、2000名を超える生徒の学びをサポート。



累計5000名
海外インターンシップ
No. 1
内閣府
青年国際交流事業検討委員



東京商工会議所
女性起業家大賞
Startup部門特別賞受賞
経済産業省
Ojac推進参画企業



EY Winning Women
2018 ファイナリスト
文部科学省
WWL連携企業



05 スケジュール

▼ 全体スケジュール

日時	内容
4月01日(月)～24日(水)	参加者募集期間
4月14日(日) 10:00～12:00	事業説明会 [中央公民館]
4月26日(金)	[1次選考] 結果通知書発送
5月19日(日)	[2次選考] 個人面接
5月22日(水)	[2次選考] 選考結果通知書発送
6月30日(日) 18:00～20:00	派遣団員顔合わせ [中央公民館]
7月06日(土) 18:00～20:00	事前研修① [オンライン]
7月25日(木) 19:00～21:00	事前研修② [オンライン]
8月01日(木) 19:00～21:00	事前研修③ [オンライン]
8月11日(日) 10:00～11:00	派遣団員壮行会 [直方歳時館]
8月18日(日)～25日(日)	現地研修 [フィンランド]
9月28日(土) 18:00～20:00	事後研修① [オンライン]
10月12日(土) 14:00～16:00	事後研修② [中央公民館]
11月29日(金) 18:00～20:00	事後研修③ [中央公民館]
10月～12月	報告会準備期間 [各自]
12月14日(土) 18:00～20:00	報告会リハーサル [ユメニティのおがた]
12月21日(土) 09:30～11:30	派遣団員報告会 [ユメニティのおがた]

▼ 現地研修日程

	日時	内容
8月18日 (日)	13:00	福岡空港集合
	15:45	福岡空港発
	17:50	成田空港着
	23:05	成田空港発
	05:55	ヘルシンキ空港着
8月19日 (月) [Day1]	09:30	Oodiツアー、ヘルシンキ街歩き
	11:00	ウェルカムランチ
	13:00	インタビューミッション
	17:00	夕食・振り返り
	20:00	ホテルへ移動
8月20日 (火) [Day2]	09:00	ヌークシオ国立公園ガイドツアー (自然体験)
	12:00	ランチ、サウナやアクティビティ、自由時間
	17:30	夕食・振り返り
	19:30	バスでホテルへ移動
	10:00	「Me&My City」訪問 (教育施設視察)
8月21日 (水) [Day3]	PM	アアルト大学訪問
	17:00	在フィンランド日本人との食事交流会
	AM	「Vallila Primary School (小学校)」訪問・授業ミッション
8月22日 (木) [Day4]	PM	授業の振り返り、ワークショップ、夕食
	19:00	振り返り
	10:00	ヘルシンキメディア高校訪問、給食ランチ、学生との交流
8月23日 (金) [Day5]	PM	ワークショップ・発表準備、夕食
	19:00	振り返り
	10:00	旅全体の振り返り・発表会
8月24日 (土) [Day6]	17:35	ヘルシンキ空港発
	12:55	成田空港着
	18:40	成田空港発
	20:50	福岡空港着
	21:30	福岡空港解散
8月25日 (日)		

06 プログラムについて

参加メンバー について

直方市からの派遣団員・引率者の他にタイガーマーブ株式会社による一般公募に応募したメンバーが現地で合流し、一緒にプログラムに参加。現地の人からだけでなく、年齢や職業、参加目的も異なるメンバーと約1週間を過ごすことで多くの刺激を受けました。

メンバー構成

中学生11名 (直方市8名) 高校生10名 大学生4名 計32名
社会人 7名 (直方市3名)

運営

タイガーマーブ株式会社 スタッフ3名 (現地パートナー1名)

プログラムの ルール

年齢も職業も異なる参加メンバーが「運命共同体」としてフラットに交流できるようプログラム独自のルールを設定。移動中やホテルで過ごす時間にさまざまなテーマで語り合う機会を作り、交流を深めました。参加者同士で多様な価値観を認め合い、お互いの挑戦をサポートし合う関係を築きました。

ルール

Peer to Peer ★ 年齢関係なく敬語禁止！
★ 親しみを込めてお互いをニックネームで呼ぶ

コンテンツ

- ① 実践を通して理解を深めるインタビュー・授業ミッション
- ② 森での自然体験でフィンランドのマインドを理解する
- ③ 教育機関への訪問でフィンランドの教育を理解する
- ④ 「らしさ」を見出すさまざまなワーク
- ⑤ 最終発表

LINEグループ NOTE機能

プログラムに関する連絡は参加者と運営スタッフによるLINEグループを活用。「旅のしおり」もNOTE機能を活用してすべて電子化。参加者同士でミッションの事前準備について相談し合ったり、プログラム終了後もコミュニケーションを取ったりとコミュニティ化しました。毎日の記憶をNOTEに残すことで振り返りの可視化も可能に。

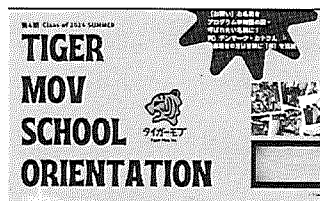
リフレクション (振り返り)

プログラム中の成長を加速するための仕組みとして、リフレクション (振り返り) を毎日実施。日々多くのインプットがある中で、自分の心と身体の声を書く時間を大切にしました。1人の時間のあと全体でのシェアの時間をとることで、自分の想いを素直に言葉にすること・他者の言葉に耳を傾けることで更に学びを深めました。

07 事前研修

事前研修①

日本全国から世界へ飛び立つ仲間と想いを共有し、渡航に向けて心の準備をする全体オリエンテーション。保護者の方にも参加してもらい（任意）、子どものチャレンジを見守る姿勢や考え方についてレクチャー。



全体概要の説明 / 参加者自己紹介タイム / ワークショップ「Dear me」 / SAFETY PROTOKOL（安全管理のためのルール） / 渡航準備に関する説明 / 宣言タイム



事前研修②

「ストーリートリオ」というワークを通して、なぜ参加したのか、自分自身の心の内や他の参加者の声を聞く時間。プログラムやスケジュールについての具体的な説明を受ける。

運営メンバーの紹介 / プログラム中のルール説明 / スケジュールの共有 / ワークショップ「ストーリートリオ」 / 渡航準備の進捗確認

1ターン、やってみよう！



ストーリートリオ（全席5分間で7分）
一席5分とストーリー（2分）
一席5分と他の席の話を聞く（1分）
全員が順番に話すと全員が話を聞く（1分）

自分のことは
自分で

事前研修③

フィンランドの国、教育、自然についてのインプット。プログラム中の「インタビューミッション」や「授業ミッション」についてグループに分かれて作戦会議。

アイスブレイク / 過去参加者の声（ゲスト2名） / フィンランドの情報に関するクイズゲーム「カフト」 / フィンランドについてのインプット / ミッション作戦会議



Let's Go!
ROUND 1

「フィンランドって聞いて何を思い浮かべる？」

08 現地研修

Day 1

世界一イノベーティブな図書館”Oodi”ツアー

フィンランド独立100周年を記念し「市民への贈り物」として建設されたヘルシンキ中央図書館。世界最高の公営の図書館に選出された。「国民のリビングルーム」をコンセプトに、図書スペースだけでなくカフェレストランや交流スペース、ラボやミュージックルームにキッチンスタジオ、映画館やPCコーナーと、ありとあらゆる設備を完備。フィンランドの政策を象徴する圧巻の公共施設。ガイドさんから詳しく説明を聞きながら見学。



< Welcome Lunch > 在フィン日本人に聞く「フィンランドってどんな国？」

さまざまな経歴を持つフィンランドに住んで働く日本人の皆さんと一緒にランチ。「フィンランドってどんなところ？」「フィンランド人のマインドって？」について日本人視点からの意見を聞いてみる。

交流メンバー

- ★ フィンランド在歴30年
現地コーディネーター
- ★ 税務アドバイザー・通訳
- ★ 幼児教育10年
ボランティア・留学経験者
- ★ 音楽大学音楽教育博士課程
客員研究員



< インタビューミッション > 目指せ100人！街なかで突撃インタビュー

幸福度ランキングNo.1、世界最高水準の教育、世界で最も森林の多い国・自然享受権など、様々な背景で憧れの対象となっているフィンランド。「実際はどうなの？」「その秘訣っていったい？」フィンランド人に聞きたいことを直接聞いてみよう！勇気を出して街なかで市民や観光客に突撃インタビュー。英語が上手に話せなくても、日本から準備してきたフリップや絵を使ってコミュニケーションを取ってみる。



Day2



< 自然体験 > ヌークシオ国立公園でガイドKaiによる自然レクチャー

フィンランドで最も人気の高い国立公園で全身を使った自然体験。フィンランドには誰もが自然を散策し楽しむ権利「自然享受権」があり、ベリーを摘んだりきのこ狩りをしたり、ハイキング、サウナを楽しむことができる。現地のネイチャープロガイド「Kai」による3時間ほどのトレッキングツアーに参加。ヌークシオ国立公園にいる野生動物についてのレクチャー、薪の割り方、木（タール）や空気の新鮮度合いなどについて、散策しながら自然への理解を深める。「ないものは自分でつくる」というアントレプレナーシップ精神がいかにフィンランド人を支えているかを学ぶ。



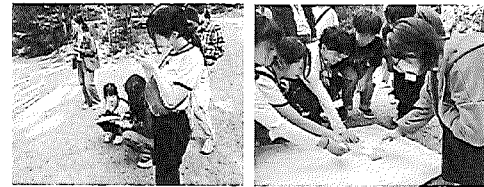
< ネイチャーゲーム > 大自然のなかで「わたし自身」と向き合う時間

ネイチャービンゴやツリーハグ選手権、森でわたしを表す4つのものを探す等、楽しみながら普段とは異なる方法で「自然」に接する。木や石など普段の生活では着目できないミクロな視点で自然と触れ合いながら、自然のなかで自分を表現し、日頃の緊張を和らげる時間を過ごす。



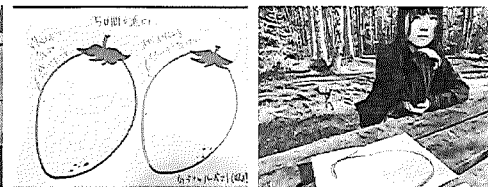
ビンゴユニーク

「このプログラムで大切にしたいこと（種）は何か」を1人ずつポストイットに書き出し、模造紙に貼っていく。近い意見が出た際には「ビンゴ」と言ってお互いに、意見が1名のみだった場合はみんなで「ユニーク!」と声を合わせる。同じ意見も異なる意見も素晴らしいということを実感するワーク。



種のワーク

自分の「種」として、このプログラムで探究したいことや最終日にはこうなりたいという状態を書き出す。プログラム終了時に「収穫したものは何か、今回は収穫できなかったけどもっと増やしたい種は何か」をひとりひとり記入するワークを実施。自分の心の奥にある「種」を探し、このプログラムでどう芽吹かせていきたいのかを言語化。



Day3



< Me&My City > フィンランドのアントレプレナーシップ教育を視察

起業家的な視点や考え方を子どもの頃から学ぶフィンランド独自の職業・社会体験プログラム。フィンランドの90%以上の学校が導入していて、子どもたちが早期から社会との接続を意識するきっかけになっている。学校でのワークブックを用いた座学と実践の機会の一つとして体験施設でのロールプレイを通じて学びを深める。体験施設を見学しながら、スタッフからフィンランドのアントレプレナーシップ教育プログラムの仕組みについて説明を受け、フィンランドの子どもたちの「やりたいこと」「将来の夢」が明確な理由を知る。



< 大学訪問 > 伝統スポーツ「モルック」をしながらアアルト大学の学生と交流

著名な建築家・デザイナーであるアルヴァ・アールトにちなんだ大学。フィンランドで3番目に大きな大学であり、6つの学部はどれも各領域で世界的な評価を獲得している。特にアート・デザイン・建築学部は、QS世界大学ランキングのアート&デザイン分野で世界第6位、欧州第4位で、同分野の先進的な教育・研究機関として著名。デザイン性が高くアートに溢れた学内を見学。アアルト大学に通う日本とフィンランドの交流サークル「ニッポリ」のメンバー9名との交流会を実施。5つのグループに分かれ、フィンランド発のスポーツ「モルック」を体験しながら、フィンランドの大学生活について尋ねる。



< 交流会 > 在フィンランド日本人との対話で「多様な生き方・選択肢」を知る

7名の在フィンランド人の人生を通して、様々な人生の選択肢や生き方を知る。

交流メンバー

- ★ シベリウス音楽院大に通う作曲家
- ★ 元日本の中学校の教員
現ヘルシンキ大学教育学マスター
- ★ 日系企業からの赴任、医療系ITエンジニア
- ★ フィンランド留学中の高校1年生
- ★ 2001年から在任、通訳、コーディネーター
- ★ 日本の美大卒、ものづくり、アート専門家
- ★ フィンランド企業勤務、営業職

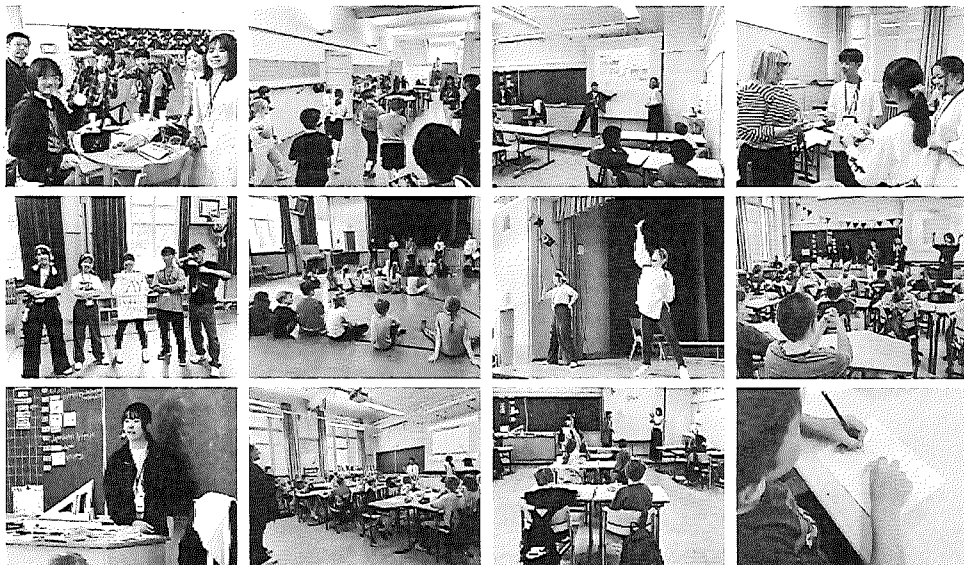


Day4



< 授業ミッション > ヴァッリラ小学校の生徒に日本文化を伝える

ヘルシンキで最も古いヴァッリラ小学校。施設としても古い環境の中、いかに現代の教育に合わせていくか、ということ工夫して実践している。ここではLearning by Doing! 受動的に学ぶだけでなく、フィンランドの子どもたちが主体的に楽しく学べる授業を自分たちで工夫して企画し、実際に30分の授業を実施。「雷道」「折り紙」「けん玉」「ソーラン節」のグループに分かれて、渡航前から準備してきたものを活かし、先生をやってみる。



< see the good > 他者からの強みのフィードバックを受ける

フィンランドの「個の強みにフォーカスして自分のよいところを見つける」というワークを実践。インタビューや授業ミッション後に他メンバーから「あなたの強みはここだと思う。なぜなら」というフィードバックを受ける。自分の知らない新たな一面を知ること、自分らしさについての理解を深める。

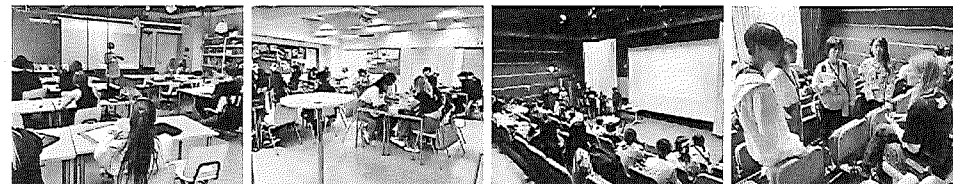


Day5



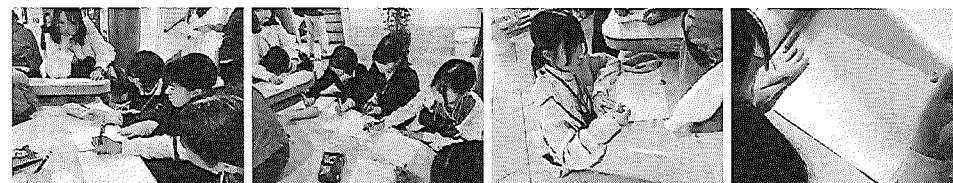
< 高校訪問 > ヘルシンキメディア高校で「学びのデザイン」について知る

ヘルシンキ市内で最も大きいヘルシンキメディア高校。いくつかの科目から興味のある分野を選択して実際の高校の授業を受けてみる。授業後、ヘルシンキメディア高校生たちの交流会を実施。「自分のことは自分で決める」「学びは自分でデザインする」という考え方を教わる。



< 偏愛マップ > 自分の「好き」や「興味・関心」を可視化してみる

「自分にはやりたいことがない」という悩みを持つ参加者が多かったため、自分の「好き」や「興味・関心」を可視化するワークショップ「偏愛マップ」を実施。思いつくことを書き出してみると、どんどん好きなことが出てきたり、興味があると思っていたことが意外にも出て来なかったりと、改めて今の自分の考えていることを見える化し、自分自身と向き合う時間を過ごす。



< 個別面談 > 運営スタッフがそれぞれの特性を活かして「挑戦の後押し」

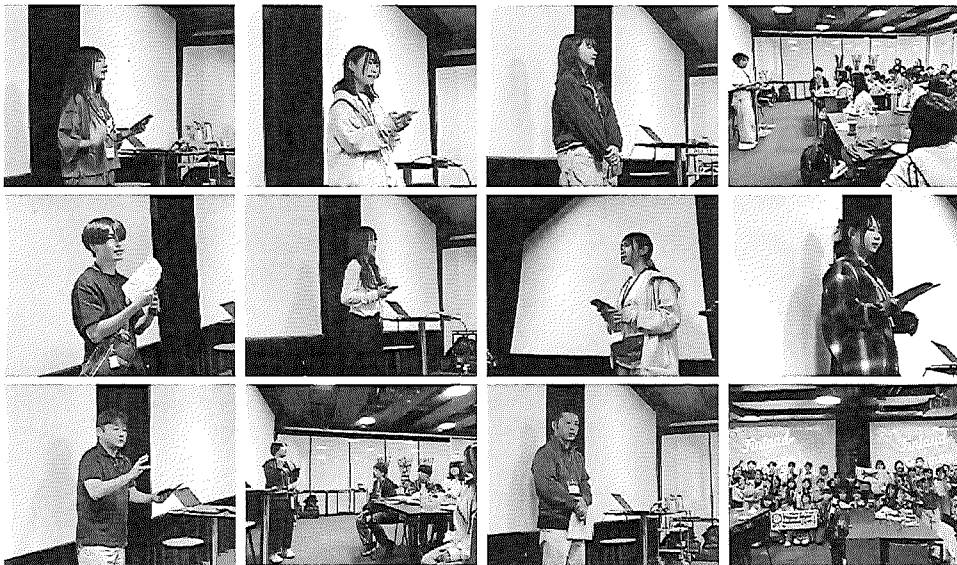
毎日たくさんの刺激を受けて、とことん自分自身と向き合う時間を過ごす中で、参加者が抱く「悩み」や「不安」、新しく見つけた「目標」や「夢」、「変わりたい、成長したい」という気持ち。本人も気付いていない可能性を広げ、挑戦したいと思う気持ちを後押しするため、さまざまなバックグラウンドと経験を持つ運営スタッフが、移動中・ホテルでの空き時間に個別で対話を重ねた。時には少し厳しい言葉もかけながら本気で語り合う時間。





< 全体発表会 > 再び”Oodi”へ。旅全体のリフレクション

このプログラムでの学びや気づきを振り返り、今後の人生にどう活かしていくかを明確にするためのリフレクション。帰国後も継続して挑戦するきっかけづくりを行うため、今の自分の想いと未来への決意表明。



< Thanks Card > 一番の「ありがとう」を伝える時間

プログラムを通して感謝したい人を1名選び、その理由をメッセージに記入。「セーの」の声かけで相手の元に行き、目を見て「ありがとう」と伝え合う時間。

ここでも自分の思っていなかった自分のよい一面を知れるきっかけに。



参加した理由

- ・高校受験が目前で自分の本当にしたい事は何なのか、確認するため。
- ・新しい自分を見つけない。視野を広げたい。自分の新しい可能性を見つけたい。
- ・フィンランドに行って日本との違いを知りたい。アントレプレナーシップを学んで身につけることでリーダーシップやチャレンジ精神を発揮したいから。

心が動いた瞬間、印象に残ったこと

- ・「好き」や「したい」、興味を大切に。好きは最強！
- ・色々な生き方を見て、ひとつの職業につくことが全てじゃなくて、したいことができたときに行動すればできるんだと感じた。
- ・完璧なことを言うより、今自分が思ったことをそのまま言ったほうが相手の心に届くんだと思った。
- ・自分は自分。自分のすることは自分で決める。
- ・ありのままの自分を受け入れてくれる人は絶対にいるんだと感じた。
- ・みんなが意見交流をするときに感じたことをそのまま言っていたことが印象に残った。私も素直に話していいんだと安心した。

苦労したこと、それにどう向き合った?

- ・「自分を出す」ということは案外難しかった。でも、手を挙げる勇気さえ出せば、あとは自分が自然と本心で喋ってくれる!と思った。
- ・感情をあまり出さなくて苦労したけど、思っていることを自分の言葉で伝えようと努力することができた。
- ・学校ではある程度話すことはできるけど、一度も話した事がない人と話すのは緊張した。でも素直になることを意識して話すことで少しだけ話しやすくなった。

「持ち帰りたい学び」は?

- ・自分の軸を持って、ありのままの自分でいること。
- ・どんな状況でも死ぬ気で頑張れば生き延びることができる。
- ・TPOは守るけど、周りの目は気にしない。
- ・いつでもどこでも挑戦はできる!
- ・フィンランドも日本もそんなにめちゃくちゃ違うということはなく、自分を出せるかどうかが大切ということ。

そのほかの感想

- ・学ぶだけでなく、自分の内面まで思っていたよりすごく成長することができた。
- ・このプログラムに参加して一日の尊さを感じた。この瞬間が人生の中で一番若いと考えるようになった。
- ・喝をいれてもらったり、新しい考え方を教えてもらったりして、やっと自分に向き合えたと思うし成長できた。
- ・帰ってから学びをいつ見つけられるかワクワクです!!
- ・周りの人(クラスメイトなど)にここで学んできたこと、感じたことを伝えたい!
- ・自分のことをよく知るきっかけになったし、いろんな考え方もできるようになるなど、たくさん成長することができたと思う。

10 派遣団員手記

作文テーマ

世界を知る。わたしを見つける。

Let's learn about the world and find yourself.

学ぶことの楽しさ

直方第二中学校 2年

石田 さら

私がこの海外派遣団員に応募した理由は、私が将来日本だけでなく、海外の人たちとも交流できる仕事につきたいと思っているからです。そして、参加することになり海外の人々の事や自分の国とは全く違う文化などを学ぶ事ができ、海外のことをもっと知ることによって私自身の視野が広がり、多方面から物事を考えられるようになりたいと思いました。

飛行機に乗って成田から約15時間、フィンランドに着いた時、すべてが自分の知らない言語で、初めての海外でワクワクしている反面、私はすごく不安になりました。最初は日本に帰りたいという気持ちもありましたが、直方市の仲間たちの支えもあって、最後には帰りたいと思うほど自分にとって最高の思い出になったと思います。

初日のインタビューミッションでは、知らない人に突然話しかけるなんて日本でもできないのにフィンランドで、しかも英語でできるわけがないと声をかけるのに躊躇してしまいました。だけど、1回勇気を出して「ハロー」と声をかけてみると、温かく答えてくれて、自信ができました。そこからは、緊張しつつも、英語や身振りや手振りを使い、インタビューをすることができました。私は元々何かに対して挑戦するときには否定的になってしまうことが多いのですが、まずは1歩踏み出してみることの大切さを実感できました。

現地の小学校や高校に実際に行ってみて感じたことは、日本では普通だと思っていたことが、実は普通ではなかったということです。小学校の頃から、授業中は姿勢を正して静かにする、先生が話している間は黙って話を聞く、自分の考えを書く時間は人と話さずに静かに書く、グループワークは自分の席から立たず近くの人だけ、それが当たり前だと思っていました。しかし、実際にフィンランドの授業を見ていると、先生に対して質問を沢山していきがやかな様子や、教室だけでなく廊下のテーブルでグループワークをしたり階段の踊り場で学習をしたりする姿が自由で驚きでした。

高校でも、日本のように髪型や服装、持ち物に校則があるのではなく、髪型も様々で染めている人もおり、服装も私服で自由、スマートフォンやイヤホンなどを使っている人が多かったです。授業では効率を良くするため1人1人がパソコンを使っていました。日本では、授業は静かに受けるものだ、学校には多くの校則がありそれを守るべきだ、という当たり前も、実はそうではないのかもしれないと思いました。フィンランドの人たちから見たら、日本で周りの空気を読んで「普通でいよう」「姿に目立たないようにしよう」と考えていること自体がまず普通じゃないのかもしれないとも考えました。「学校での授業」という一面を見ただけで、私が考える普通とは違う普通を多く知ることができました。

フィンランドの教育が全て正解で、日本の教育が間違っているというわけではありません。それぞれにいいところがあると思います。教育以外にも、生活文化、食文化など異なる場面が沢山あります。お互いに「違う」を認め合うためには、相手を「知る」ことから始まるのだと思いました。

私はこの派遣事業を通して新しいことに触れ、何事にも全力で楽しむことで沢山の学びを得ました。そして、これから私はもっと色々な文化を知りたいと思いました。色々な国の人と友達になって、私が思う普通とは違う普通を見たいと思いました。また、何かを学ぶ、知ることにはず「楽しむ」ことが重要だと気付いた5泊8日でした。知らない物事に対し、気づいたり興味を持ったりするのは難しいと思います。無理に興味を持とうとするほどストレスになり、上手く力を発揮できません。しかし、自分が「楽しい」と思ったものには興味が湧き、新たな気づきが生まれました。自分の意思で、自分が心地よく続けられることが近道になります。また、何事にも疑問を持ってみるのが興味を持つことにつながると思いました。これから、この派遣事業で学んだことを活かし、何事にも私らしく楽しんで挑戦していきたいです。

自分が変わるきっかけ、 フィンランド

直方第三中学校 2年 奥野 舞

まず、私がこの事業に参加しようと思った応募動機についてです。1つ目は、日本とフィンランドの生活、文化、世界観の違いを自分の目で見たいと思ったことです。実際に行って学ぶことと話を聞くことでは感じ方が違うと思ったので応募しました。2つ目は、世界最高水準の教育とは、どのようなものなのか興味があることです。それを学ぶことでコミュニケーション能力を上達させたい、そしてこのプログラムに参加することで今よりも主体性やチャレンジ精神を向上させたいという思いが強いからです。向上させることで自分のリーダーシップをクラス、学年、学校など周りにも広げていくことで、直方市が目標としている「グローバル人材の育成」にも貢献できると思いました。3つ目は、外国の人と積極的にたくさん話したい。フィンランドの学生と友達になり、帰国後も交流を続けたい。このような目標を達成するために応募しました。

次に、現地に行って学んだことや考えたことについてです。研修内容は、Oodiツアー、インタビューミッション、国立公園ガイドツアー、教育施設の視察をし、小学校、高校、大学も訪ねました。1週間の研修でしたが、毎日がとても充実していました。学んだことや考えたことはたくさんあります。その中でも特に、印象に残っていることが2つあります。

1つ目は、フィンランドの学生の授業や将来について取り組む姿勢です。それを特に感じた場面は、小学校の授業です。その中でも班での話し合いの場面で、先生が指示するとすぐに班になりました。さらに話し合いでは、残されている人が1人もおらず、全員が積極的に参加していました。その後、先生が「終わり」と指示すると、さっきまで話し合いをしていたとは思えないくらいすぐに切り替えていました。自分の小学生のときと比較してみて、そのメリハリができていられる様子にとてびっくりしました。フィンランドは世界最高水準の教育の先進国なので、小学校からこのような基準があることにとても驚きました。自分もこのメリハリを学校生活でも真似したいと思いました。その他にも、大学について幼いときから深く学ぶことや整っている環境を見て、関心しました。

2つ目は、自分自身を大切にしていることです。街でインタビューをしているときや在フィンランド日本人、そして学校で話を聞いたときにフィンランドで大切にされている考え方を聞きました。それは、「人と比べるのではなく自分自身を大切にすること。No.1ではなく、only1を目指す」というフィンランド流の考え方です。自分もどちらかというと1番を目指すことが多いため、研修中にonly1で過ごしてみようと思いました。だから、実際に昨日の自分より今日の自分が1番と思えるように目標をたて、動いてみました。すると、それぞれ違いが見えてきて、1日でもこんなに成長できるんだと自分に感心しました。この自分自身の中で1番という考えは、ずっと忘れずにいたいのでこの作文や研修の振り返りをこまめにします。

最後に、私は始業式の日に、同じクラスの派遣団員である梶島さんとクラスで研修について発表しました。何をしたのかや学んだことをメインに興味をもってもらえるように伝えました。そして口頭だけでは印象に残りにくいかと感じ、私は簡単なレポートを作り、すぐにクラスの人と共有しました。その後の校内文化祭では、野吾さん、梶島さん、私の派遣団員3人で全校生徒へ学んだこと、感じたことの報告をしました。するとたくさんの人から「フィンランドについてよく分かった。」や「もっと知りたい。」や「自分も行ってみたい。」という声をいただきました。また今は、フィンランドで学んだことを活かして、緊張することが減り、自分の意見を授業の中でさらに発言できるようになりました。また、修学旅行の実行委員や2年生生徒会三役への立候補を今までは迷いがありましたが、今回は迷いなくできました。そしてどちらにもなることができたこともあり、現在も自分や周りのために挑戦を続けています。そして目標の1つであった「フィンランドの学生と友達になる。」という事が達成できたので今も交流を続けています。

今回私がとても成長できたことは、もちろんこの事業のおかげでもあります。フィンランドで出会った人達と共に全国からフィンランドに行ったメンバー、そして直方市メンバーなどたくさんのことが積み重なったからこそ成長できたのだと思います。これからもこの出来事やたくさんの人に感謝しながら、この経験を忘れずに、さらに成長できるように努力していきます。色々なことがありましたが、この事業に参加できて本当によかったです。

自分で考え、行動すること

直方第三中学校 2年 梶島 礼華

今回の事業に参加して私がまず感じたことは、世界はこんなにも広いんだということでした。それは、当たり前前のことのように思うかもしれませんが、私はこれまで海外に行った経験がなく一人で遠出をしたこともほとんどありませんでした。そうした経験がなかった私にとって親元を離れ、自分で行動することはまるで今までとは全く異なる世界へと飛び込むような感覚であり、心に強い印象を残す出来事となりました。

まず、フィンランドは街並みから全然違いました。どこを見ても必ず公園や広場があり、広々とした空間が保たれていて、程よく自然と調和していました。そんな国で暮らしている人たちの考え方はどうなのだろう。やはり街と同じようにゆったりとした考え方なのだろうかと思っていましたが、実際は周囲に流されることなく、自分の考えを持ち、責任ある行動をする信念を持っているということに驚かされました。彼らは自分の意見やアイデアを他者と積極的にシェアし、何よりも自分自身の決断を信じて行動しているように感じました。

対照的に、これまでの私は周りの意見を気にするあまり、自分の意思や考えを主張することが少なく、どちらかというと周囲に合わせて行動することが多かったのです。そのため、自分の意見を言えず、自分が本当にやりたいことや感じていることを口にするのを避けてがちでした。しかし、今回のフィンランドでの経験を通して、私は少しずつ新しい自分に出会い始めたのだと思います。例えば、現地での活動の中で、私はこれまで以上に自分の感じたことを伝えようと意識してみました。発表の機会があった際には、考えがまとまっていなくても、勇気を出して手を挙げ、思い切って自分の考えを話してみました。また、班活動での場面でも、積極的に意見を出すことを意識しました。その1つ1つは小さな一歩かもしれませんが、私にとっては大きな挑戦でした。自分の意見を伝えることは、単に言うだけでなく自分自身を表現する、重要な行動の1つでした。

さらに、フィンランドでの生活の中で、周りと同じであることよりも自分らしさを持つことが尊重される場面に多く出会いました。彼らは1人ひとりの違いを受け入れ、それを個性として大切にしているようでした。たとえば、異なる文化や価値観を尊重し合いながら、それぞれのアイデンティティを守り、自由に自分を表現できる環境がありました。これは、自分らしさを表現することに対する私の考え方を大きく変えました。

世界は広く、さまざまなものの見方があります。その広さに触れることで、私はこれからも自分自身を成長させ、さらに新しい世界にも挑戦していきたいと思っています。

自分を探して自分を愛する

直方第三中学校 3年

野吾 蒼矢

フィンランドから帰国して約4ヶ月経った今、自分が何を感じていて、どのような変化があったのか、を記します。

そもそも、僕はなぜこの企画に応募したのか？それは将来のなりたいた自分の姿に辿り着く道すじに大分濃いのモヤがかかっていたからです。受験生になってから何度も進路について考えました。考えれば考える程分からなくなり、自分が本当にしたい事ですらはっきりと見えなくなってしまいました。

僕の将来の夢は作曲家になる事です。幼稚園でハーモニカを教わって以来、音楽に興味を持ち、小学4年生の時に直方市主催の「ユメミルコドモネアカデミー」第2期生の一員となり作曲を学びました。その時の講師であった堤秀樹プロデューサーには今も指導を継続して頂いており、パソコンでの楽曲製作をメインに活動してきました。しかし、ある程度成長すると現実という壁が夢の前に立ちふさがり、自分の好きな「作曲」を信じる事が出来なくなっていました。そんな中『フィンランドでやりたい自分になる為の留学』という企画を知り「進路を考える材料を自分の目で見て確かめたい。これは自分の為の大チャンスだ。」と思い応募しました。

フィンランドでの8日間で成長出来たのは参加者全員が全力でプログラムに取り組んでいたからだだと思います。教師になりたい人や保育士になりたい人など、みんな1人1人が違う夢を持って一生懸命日々を過ごしている事を知りました。

それでもプログラム序盤、僕たちは主体的に発表をし、本当の意味での本気でプログラムに取り組むという事が出来ていませんでした。そんな僕たちに現地スタッフのライリーが言った言葉は今でも印象に残っています。「このままですぐにプログラムが終わってしまう。1日1日を無駄にしてはいけません。」この言葉を聞いて僕たちはもっと本気で取り組もうと思える様になりました。みんながどんどん成長していくのを感じて自分も頑張ろうと切磋琢磨し笑り有る8日間となりました。

次に、自分の心境の変化についてです。僕は様々な場面にに応じて自分を使い分けていたのですが、時折自分の本心とのズレを感じる事もありました。外では友達と話を合わせようと、本心を忍ばせて変わり身の術でやり過ごす自分。家に帰ればガラガラとだらしく油を売っては鰻という名の怒りを貰う自分。フィンランドでは、大自然に囲まれた夕暮れに参加者全員で輪になって自分の人間性について本音を伝え合う場面がありました。そこでも、最初はその場で也正解と思われる答え、相手の望んでいそうないわゆる模範解答を導き出し、本当の気持ち、本当の自分をさせていませんでした。「本当の自分とは何か。」を何度も何度も考えました。自分を良く見せようとしたり求められそうな答え方をしたりする様になったのはいつからだろうか？なぜだろうか？そして…自分はどんなに仲の良い友達と話す時も、いや、むしろ大切な仲間と呼べる友達だからこそ僕と居る時は心の底から楽しんで欲しい、笑顔にしたいと考える様になり、でもそれは理想の友人キャラクターを演じているのでは？という考えに落ちいってしまいました。そんな気持ちを抱えたままスケジュールも後半にさしかかる頃、仲間の1人に僕は尋ねました。「本当の自分って何だと思えますか？」僕の投げかけた問いに、「背伸びしてカッコ良く見せる蒼矢、家族の前では本当にだらしない蒼矢、その全ての蒼矢を自分自身が好きになる事が出来たならそれは全部本当の自分なんだと思うよ。」と言ってくれました。その言葉に僕は救われました。無意識に使い分けていた色々な自分の中から正解を1つ選ぶのはナンセンスだ。その全てが僕なのだから。色んな自分を発見しよう。そして全ての自分を好きになろう。こうして僕は新しい考え方を身につけました。

「挑戦する事は無条件に美しく、1日1日は本当に尊い。なぜなら今この瞬間が人生で1番若く2度と戻る事は出来ないのだから。」これはフィンランドで知った言葉です。何かに挑戦しようとする時、この言葉が背中を押してくれます。僕が作った曲で世界中の人を笑顔にしたい。小学校4年生の時に抱いていた気持ちが再びよみがえりました。僕は作曲家として成功する！そして、その高い壁を乗り越えようともがき苦しむのであろうとも自分を全力で愛していく。そう思えるようになったのは、フィンランドで出会った良い仲間達と本音で語り合い気持ちを通わせる事が出来たからだだと思います。

以上が「なりたいた自分になる為の留学」での僕の結果報告です。

フィンランドで得たもの

直方第三中学校 3年

野原 茉莉

今年の夏に直方市の派遣団員として、フィンランドに1週間滞在するプログラムに参加した。その中では、いつものようにガラガラと過ごす夏とは異なった濃く、刺激的な体験が多くあった。

1日目に、Oodiという名前の国立図書館に行った。ガイドツアーの中でコンセプトが、「市民の交流のためのリビングルーム」であり、それに従い3Dのプリンターやミシンの貸し出し、ワークショップスペースやカフェ会議室までもがあるということを知った。また、高額な税金が正しく使われているということも伝えるための場所でもあるということも聞いた。フィンランドの独立100周年を記念した市民への贈り物として建設されたので、完全に完成をしていなくてもオープンをしたり、オープンをして間もないのに市民の求める利便性のために裏口を作ったりするなど、国としての柔軟性を知ることができた。

2日目に、ヌークシオ国立公園を訪れた。ヘルシンキからは近いが、雰囲気が都市の喧騒から離れていた。また、3時間程度歩いたが、周りの景色や雰囲気によって、疲れをほとんど感じなかったことが驚きだった。私の知らない世界であり、水の音に注目して水源を探してみたり、自分のことを表現できる自然にあるものを探してみたりして、今までしたことのないことをした。自然は身近にあるが初めての経験が多くあり、とても貴重な時間となった。森の中でキャンプができなかったことは残念だが、自然の中にいることが好きで、どこか田舎に行きたいと幼少期以来改めて感じる事ができた。

4日目、5日目に行った小学校と高校でも多くのことを経験した。小学校ではグループワークをする際、自分の席ではなく、他の人の席や床の上、教室の中ではなく廊下の机や階段の踊り場で話し合いや作業をしていたことが衝撃的だった。それ以外の先生の話や大人数が集まっているときは、自分の席にいたことが予想外だった。また、私たちの行ったヘルシンキメディア高校でも驚くことが多くあった。単位制のため自由に時間割を作ることができ、先生が合わないと感じるとすぐに自分に合った教え方の先生の授業に変更することができる。また、卒業することも大切だが、それ以上に自分自身のやりたいことを優先することが大切だと考えられている。そのため、自分のしたいことに合わせたり自分のしたいことを探したりするため、時間をかけて卒業して、早めに大学に向けての準備をしたりすることができる。そして、ヘルシンキメディア高校初となるヨーロッパ外での校外研修が日本で行われた。これは、予算が余っていて、学校にジャバンクラブがあるからという理由で、計画を始めてからすぐに決定した。このことから、人々の柔軟性を知ることができた。

1日目と4日目に、現地に住んでいる日本人の方の話を聞く機会があった。4日目は特に新しく気づくことが多くあった。話を聞いた方は、日本の企業で働いていたが、フィンランドの子会社に赴任した方だった。20~30代くらいの物腰の柔らかそうな方だった。最初の半年は家族と離れ1人で生活をしながら、会社では唯一のアジア人であったなどの苦労話も聞いた。現地で約2年間医療系のエンジニアとして働いていると、フィンランド人は「みんな違ってみんなどうでもいい」という考え方をもっていると感じるとおっしゃった。例えば、仕事の取引相手であったとしても、探している人がどこにいるのかと聞いても誰も知らない。会社にいるはずだから自分で探すべきだといわれる。しかし、時間厳守で出勤時間や退社時間、プライベートでの約束時間が必ず守られているなど、日本人の性格ととてもあっていると感じ、働き、暮らしていく環境としてとても良いとおっしゃっていた。

フィンランドに行ったことで主に「世界を知る。」ということができたと思う。また、多くの初めての経験ができ、これからの人生を歩んでいくうえでの糧となるものを得ることができた。一方、「私を知る。」ということではできなかったと思う。しかし、新しい考え方を知ることができたり、行動に移すことができずにいた「好きだ」という気持ちを再確認することができたりした。このような気持ちを忘れずにこれから生活していきたい。

新しい自分を

直方植木中学校 3年

磯野 采音

私は、今年の夏休み、世界一幸福な国と言われているフィンランドへ1週間行きました。そこではフィンランドの教育や生活についてなど、いろんなことを学ぶことができました。また、本当の自分を見つけることができ新しい自分へと変わることができました。そして、これから大切にしていきたいことや目標を見つけることもできました。

このプログラムに応募した理由についてです。きっかけは中学校で配布されたプリントでした。そのプリントには、「フィンランドでアントレプレナーシップ、起業家精神を学ぶことができる」と書かれていました。私はアントレプレナーシップとはどんな教育なのか、実際にどのようなことをしているのか、日本の教育と比べてどんな違いがあるのかを知りたいと思い応募しました。また、私は将来の夢が決まっていませんでした。そのため、フィンランドへ行き、日本ではできない体験をして自分の興味を増やし、この先どんな人になりたいのか、自分には何ができるのか、未来について考えられるようになりたいと思いました。

次に実際にフィンランドへ行って思ったことや感じたことについてです。フィンランドには世界一と言われている図書館があります。とても大きく、遊び場やレストランなどもあります。私は実際にそこに行き、とても驚いたことがありました。それはソファや床でくつろいでいる人や友達と楽しく話しながら勉強している人がいたことです。日本の図書館では「静かに椅子に座って勉強をしたり、本を読んだりする」というのが基本です。しかし、フィンランドでは自分たちのスタイルでしたいことを自由にしていました。私はその光景を見て、フィンランド人が勉強が得意だったり好きだったりするのは、それぞれ自分に合った「環境」で勉強ができるからだと思いました。また、それによって勉強を「楽しくすること」ができるのではないかと考えました。これが、日本との違いだと思いました。

また、現地では街なかで声をかけてインタビューするという取り組みをしました。最初は緊張して勇気が出ず、話しかけるのがとても怖かったです。しかし、みんなで1人目の人に声をかけに行くと笑顔で質問に答えてくれて、話しかけてよかったと感じました。その人には、日本のイメージについて質問し、「日本のアニメや漫画大好き」と答えてくれたとても嬉しかったです。そして、話しかけていくにつれインタビューするのが楽しくなり、もっとたくさんの人から話を聞きたいと思うようになりました。この取り組みを通して挑戦することの楽しさや、実際に自分から積極的に行動することの大切さを強く実感することができたので貴重な体験となりました。

最後に、本当の自分を見つけ、新しい自分へと変わったということについてです。中学生から社会人と年代がそれぞれ違う32人のプログラムメンバーと意見を伝え合う機会が多く、私はそのときに綺麗事を言ったり本音が出せなかったりしていました。そのことで悩んでいるときにプログラムの運営をしていた落ち着いた雰囲気笑顔が可愛いライリーと、なぜ本音を言うことができないのか考えました。そこで私は、自分の本音を伝えてみんなに嫌われたり、共感してもらえなかったりすることを恐れて言えていないということに気付くことができました。本当の自分は怖がりなのだとそこで知りました。私は、本音を言うようになりたいし、思っていることを素直に伝えられるようになりたいと思いました。だから、プログラムの後半からは、話がまとまっていなくても、感じたことや思ったことをそのままみんなに伝えようと思い始めました。そして、私はみんなに「本音を伝えるのが怖い」と自分の言葉で伝える大切さや楽しさを感じることができ、新しい自分へと変わったように感じることができました。このようにいろんなことに挑戦したり人と関わっていったりすることで、新しい自分へと変わっていきけるということに気付きました。

今回のフィンランドのプログラムを通して、自分自身の成長へとつなげることができました。また、これからも自分の本当に思ったことや感じたことを大切に伝えていきたいです。そして、1つ1つの機会や人との出会いに感謝して、たくさん挑戦し新しい自分へと変わっていききたいです。

言葉の力で

福岡大学附属大濠中学校 2年

近藤 輝俐

皆さんは今、大切にしている言葉はありますか。私にはたくさんあります。今までは、家族や友人からのメッセージや、学校の先生から教わった言葉などがほとんどでした。私は、フィンランドへ行って現地の方々と交流していく中でたくさんの言葉に触れ、大切にしたい言葉をさらに増やすことができました。その中でも、特に自分に響いた言葉を2つ紹介します。

1つ目は、「いつでも挑戦できる」という言葉です。この言葉は、フィンランドに住んでいる日本人の方々と交流したときに聞いた言葉です。その交流した方々の中には、「とりえずフィンランドに来てみた」という方が多く、その行動力に驚きました。たとえ、確固とした目的がないとしても、とりえず挑戦してみろという前向きさをとても感じました。また、フィンランドでは大人になってからもう1度大学に通って、今までの仕事とは別の仕事に就いたという方がとても多くいました。私は今まで、大学に通うのは1度だけだと思い込んでいました。そのため、将来の夢はいくつかの候補の中から1つに絞らなければならないと思っていました。しかし、フィンランドで新しい夢にどんどん挑戦している方々と交流して、私は将来の夢はいくつあってもよいもので、したいことをたくさん見つけようと思いました。もちろん、フィンランドは学費が無料だから日本よりも気軽に大学に通うことができるのだと思います。しかし、それだけが理由ではないはずです。挑戦しようという気持ちがそうさせるのです。だから私は、常に夢を諦めず挑戦する志を持ちたいです。

2つ目は、「ネガティブもポジティブ」という言葉です。この言葉は5日目の夜、ホテルに帰るまでの道のりで行ったペアワークのテーマです。そのワークは、お互い自分の性格のよくない部分を伝え合い、それをポジティブに言い換えるというものでした。私は初めて聞いた時、「それは流石に無理だろう。」と思いました。しかし、実際に私がペアに「人見知りがよくない部分だ」と伝えたと、ペアの大阪に住む高校1年生の女の子が、「それは、時間をかけてゆっくりと仲良くなるってことでいいんじゃない？」とポジティブに言い換えてくれました。この経験を通して私は自分に自信を持とう、前を向こうと思うことができました。自分の性格のよくない部分は、自分の思うようには直りません。その部分について悩みすぎてしまうことも多いと思います。そんな時こそ、「ネガティブもポジティブ」という言葉を思い出して、1歩踏み出してみることがよいのではないかと私は考えます。それでもあまり前に進めないときは、友達や家族、カウンセラーの方や学校の先生などに相談して、ともにネガティブをポジティブに捉え直すとういと思います。

自分の頭の中でモヤモヤとしていることを周りの友達や家族、学校の先生などに話してみるだけで、自分の主観的な視点だけでなく相手の視点を取り入れることができます。周りの人たちの意見や視点、そして言葉を取り入れることで、新たな世界に1歩踏み入れることができるのではないかと思います。

このように、私はフィンランドへ行き現地の方々と交流していく中で、たくさんの言葉を学び大切にしたい言葉ができました。帰国してからその言葉をノートにまとめました。そのノートを見返すといつでもフィンランドの事を思い出すことができます。そうすることで改めて言葉の力を感しました。私の人生の中で1番「本当の自分」と向き合ったフィンランドでの8日間をこれからも大切にしていきたいです。

私が今回の研修で学んだことは、1週間での経験とは思えないほどにたくさんある。ここでは、1日ずつ振り返って学びをここに残したいと思う。

まず1日目の最初、国会議事堂の前に建つ国立図書館「Oodi」を訪れた。市民の意見をとりいれていて、フィンランドの政治のあり方が象徴されていた。また市民の「好き」や「したい」がサポートされていて、税金の使われ方が目に見えてわかって羨ましいなと感じた。「ウェルカムランチ」では、「したい」と思ったら即行動することの大切さを教えてもらった。とにかくやってみたら、何とかなる。そんな体験話を聞かせてもらって行動することへの勇気をもらった。1日目の最後の活動「インタビューミッション」では、意外にも英語で会話をすることができた。しかし同時に、単語の意味を知らず、上手く意思疎通ができなかったことがとても悔しかった。

2日目は、「ヌークシオ国立公園ツアー」で自然と共に1日を謳歌した。自然の空気の綺麗さと水の美しさに感動し、自然の恵みの大切さを思い知った。またそこでの会話で、先生との関わり方について話した。ここでは私は「先生や大人が全て正しいというわけではない」ということを知った。当たり前には私は今まで、言われたことに従って生きてきた。だからこそ、それに気付けたことは私にとって大きな成長だった。

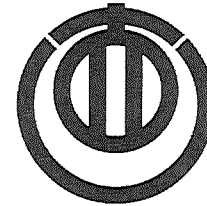
3日目の「Me&My City」では、始めは仕組みはキッザニアに似ていると感じたけれど、大きく異なる点が2つあった。1つ目は日本のキッザニアでは、雇われて「お金を稼ぐ」ということに焦点を当てられていたイメージだったが、フィンランドでは「1から自分でつくる」これこそ「アントレプレナーシップ」の教育だと感じた。2つ目はこういった教育が「無料」で受けられるという点である。また、職員さんはお話の中でフィンランドでは「勉強=アントレプレナーシップを育てること」だとおっしゃっていた。そこからも日本との違いを大きく感じた。そうして迎えた「お食事会」ではフィンランドの学校に通っている日本人の方にお話を伺った。そこで1番印象に残っているのはクラスのルールは自分達で決め、校則は法律だとおっしゃっていたことだ。この日の最後の意見交流の場では、みんなの意見の変化やみんなの成長を心から感じ嬉しく感じたし、同時に焦りもあった。そして、この日気づいた1番大きなことは「きれいにまとめた言葉より、とにかく思っていることをそのまま伝え、相手の心に届く」ということだ。

4日目の「小学校訪問」では、日本との違いが大きく3つあった。1つ目は、授業の方法である。先生は、目標だけを伝えて、自分にあった方法で自ら学んでいく。ただ問題集を解いていく子もいれば、アクティビティを活用している子もいた。2つ目は、先生という職業が人気だと言うことだ。そして3つ目は、上下感覚がないということだ。先生達と気軽に友人のように話すのは当然のことで話を聞くとときも自由に聞いていた。

5日目は、「偏愛マップ」の作成から1日が始まった。そこでは、1つの職業に就くことだけが全てではなく、「好き」を仕事にしている人の人生に憧れを感じた。

6日目、最終日。みんなと最後の意見交流で出会った素敵な考えをここに残しておこうと思う。「大人の言葉を信じるな」、「日常に負けるな」、「NO.1じゃなくてonly1」、「教育は大人から子どもにではなく、人から人に」

この1週間で私は1日の長さ、1日での経験の量に驚いた。これからは1日1日を大切にしていきたいと思った。そして、学びは自ら掘みに行くもので、受身になっていても学びというのは、全然身に付かないと分かった。最後に私は自分の人生を豊かにしていく目標として「好き」や「興味」を大切に、とにかくそれを「口に出す!!」そして「行動する!!」ことをここに宣言しておく。



Nogata City

直方市教育委員会
文化・スポーツ推進課社会教育係
TEL 0949-25-2326

Nogata city
entrepreneurship
educational
program



参加者
募集

中学生対象

はじめて見える、新しい未来

はじめて出会う、未知の世界

フィンランドで過ごす週間

世界を知る。✈
わたしを見つける。

Let's learn about the world and find myself.

令和7年度直方市中学生海外派遣事業

【行先】フィンランド(ヘルシンキ周辺)
【期間】8月17日～24日



参加申込み期間

市内在住の中学1～3年生対象

4.1 ▶ 4.30

Tue.

Wed.

直方市教育委員会

募集要項はこちら

TO THE WORLD

OPEN THE GATE



直方市の未来を担うグローバル人材の育成のために 市内在住の中学生を約1週間海外に派遣します

世界を知ることは、自分の新しい可能性を見つけること。
世界を知りたいと思うその気持ちを、大切にしたい。



- 主催** 直方市教育委員会
- 派遣先** フィンランド（ヘルシンキ周辺）
- 派遣期間** 8月17日（日）～24日（日）
- 派遣人数** 8名程度
- 参加料** 無料
- 募集要項** 直方市ホームページに掲載
直方市役所1階こもれびテラス・
直方市役所2階学校教育課にて配布

フィンランドの大自然を散策して、バルト海に面した美しいヘルシンキの街を自分の足で歩く。現地の学校は日本とはどう違うのか体験してみよう。英語が上手に話せなくても、フィンランドの学生や先生との交流に挑戦！日本にはないユニークな施設で、世界一の教育について学ぶ。自分はどうなことが好きで、何が得意なのかをじっくり考えてみる。旅の終わりには、世界最高と言われる図書館で、自分自身と向き合う時間を。

プログラムの詳細・申込方法・参加者選考方法等は必ず募集要項をご確認ください

フィンランド流の「生きる力」を学ぶ旅

どうして旅先はフィンランドなの？

どんな未来が待っているのか予測がつかないほどめまぐるしく変わっていく時代を生き抜いていくためには、どんな力が必要だと思いますか？そのヒントがフィンランドで見つけられるかもしれません。世界最高基準の教育と言われるフィンランドの学校で大切にされているものは「未来を描く力」「自分で自分の人生を切り拓く力」「自分の人生を主体的に作る力」です。自分自身のことをよく知ることが大切で、そして自分の「好き」や「得意」が社会とどう繋がっていくかを考えます。自分が好きなこと・得意なことで、自分自身と誰かのために新しいものを創造する・変革を起こす。これがフィンランド流の「アントレプレナーシップ（起業家精神）」と呼ばれるものです。この約1週間の旅では、日本とは全く異なる環境でたくさんの刺激を受けながら、異文化体験と国際交流を通して、楽しく「アントレプレナーシップ」を学びます。

令和7年度直方市中生海外派遣事業の特徴

Point 1 参加負担金無料

誰でも挑戦しやすい機会の提供を目指し、渡航費用を含む全ての費用を市が負担します。
（※パスポート取得費用やお小遣い等の個人的な費用は除く）

Point 2 アントレプレナーシップに特化したプログラム構成

漠然と「海外へ行ってみる」だけでなく、世界最高基準の教育を実践する、アントレプレナーシップ教育の先進国であるフィンランドならではのプログラムです。

Point 3 多彩な体験活動

観光地の周遊やホームステイをメインとした研修ではなく、自然・文化・歴史・教育の分野に渡り、1週間で余すところなく体験します。多角的な刺激が盛り沢山の内容です。



直方市が考える「アントレプレナーシップ教育」とは

起業家（アントレプレナー）に必要なとされる精神【チャレンジ精神・創造性・探究心】や資質・能力【情報収集・分析力・判断力・実行力・リーダーシップ・コミュニケーション能力】の育成に着目した「生きる力」を育てる教育です。不確実性が高く将来の予測が困難なこれからの時代においても、自分の強みや輝ける環境を認識し、変化のなかに機会を見出して自らイノベーションを起こすことで未来を切り拓いていくことができる人材の育成を目的としています。

Nogata city entrepreneurship
educational program

お問合せ先

直方市教育委員会
学校教育課学校教育係
TEL 0949-25-2323

事業説明会を開催します

プログラムの詳細のご説明を行います

4.20
Sun.10:00～

直方市中央公民館

事前申込み制です
お申込みはこちら
.....>



Nogata city
entrepreneurship
educational
program



参加者
募集

高校生対象

フィンランドで過ごす
一週間
はじめて出会う、未知の世界
はじめて見える、新しい未来

わたしを見つける。
世界へ羽ばたく。

Find myself and take off toward the world.

令和7年度直方市高校生海外派遣事業

【行先】フィンランド(ヘルシンキ周辺)
【期間】8月17日～24日



参加申込み期間

市内在住かつ市内高校に通学する高校1～3年生

4.1 ▶ 4.30

Tue.

Wed.

直方市教育委員会

募集要項はこちら

TO THE WORLD

OPEN THE GATE



直方市の未来を担うグローバル人材の育成のために 市内在住かつ市内高校に通学する高校生を約1週間海外に派遣します

世界を知ることは、自分の新しい可能性を見つけること。
世界を知りたいと思うその気持ちを、大切にしたい。



- 主 催** 直方市教育委員会
- 派 遣 先** フィンランド（ヘルシンキ周辺）
- 派遣期間** 8月17日（日）～24日（日）
- 派遣人数** 5名程度
- 参 加 料** 無料
- 募集要項** 直方市ホームページに掲載
直方市役所1階こもれびテラス・
直方市役所2階学校教育課にて配布

フィンランドの大自然を散策して、バルト海に面した美しいヘルシンキの街を自分の足で歩く。現地の学校は日本とはどう違うのか体験してみよう。英語が上手に話せなくても、フィンランドの学生や先生との交流に挑戦！日本にはないユニークな施設で、世界一の教育について学ぶ。自分はどうなことが好きで、何が得意なのかをじっくり考えてみる。旅の終わりには、世界最高と言われる図書館で、自分自身と向き合う時間を。

プログラムの詳細・申込方法・参加者選考方法等は必ず募集要項をご確認ください

フィンランド流の「生きる力」を学ぶ旅

どうして旅先はフィンランドなの？

どんな未来が待っているのか予測がつかないほどめまぐるしく変わっていく時代を生き抜いていくためには、どんな力が必要だと思いますか？そのヒントがフィンランドで見つけられるかもしれません。世界最高基準の教育と言われるフィンランドの学校で大切にされているものは「未来を描く力」「自分で自分の人生を切り拓く力」「自分の人生を主体的に作る力」です。自分自身のことをよく知ることが大切で、そして自分の「好き」や「得意」が社会とどう繋がっていくかを考えます。自分が好きなこと・得意なことで、自分自身と誰かのために新しいものを創造する・変革を起こす。これがフィンランド流の「アントレプレナーシップ（起業家精神）」と呼ばれるものです。この約1週間の旅では、日本とは全く異なる環境でたくさんの刺激を受けながら、異文化体験と国際交流を通して、楽しく「アントレプレナーシップ」を学びます。

令和7年度直方市高校生海外派遣事業の特徴

Point 1 参加負担金無料

誰でも挑戦しやすい機会の提供を目指し、渡航費用を含む全ての費用を市が負担します。
（※パスポート取得費用やお小遣い等の個人的な費用は除く）

Point 2 アントレプレナーシップに特化したプログラム構成

漠然と「海外へ行ってみる」だけでなく、世界最高基準の教育を実践する、アントレプレナーシップ教育の先進国であるフィンランドならではのプログラムです。

Point 3 多彩な体験活動

観光地の周遊やホームステイをメインとした研修ではなく、自然・文化・歴史・教育の分野に渡り、1週間で余すところなく体験します。多角的な刺激が盛り沢山のコンテンツです。



直方市が考える「アントレプレナーシップ教育」とは

起業家（アントレプレナー）に必要なとされる精神【チャレンジ精神・創造性・探究心】や資質・能力【情報収集・分析力・判断力・実行力・リーダーシップ・コミュニケーション能力】の育成に着目した「生きる力」を育てる教育です。不確実性が高く将来の予測が困難なこれからの時代においても、自分の強みや輝ける環境を認識し、変化のなかに機会を見出して自らイノベーションを起こすことで未来を切り拓いていくことができる人材の育成を目的としています。

Nogata city entrepreneurship
educational program

お問合せ先

直方市教育委員会
学校教育課学校教育係
TEL 0949-25-2323

事業説明会を開催します

プログラムの詳細のご説明を行います

4.20
Sun.10:00～

直方市中央公民館

事前申込み制です
お申込みはこちら

